詞玉緒補遺　二

和書門
類　一八四九
號　一八一
函　一六三
架
冊

内閣文庫
和書
類　一八四五九
號
冊　六
函　二七
架　一四

内閣文庫
番號　和　18459
冊數　6　(　2　)
函號　207　261

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫

手引乃糸二之巻

○玉葛四の巻

や

○切るや
語のとちあひおくやめりとあ玉葛てあり〻を按にこれ問
かるゝ乃やめり切る詞より乃玉葛格なるゆ玉葛て
そゝくいそれるあ

万八
ふるさとのなつ山乃なとき乃なとそてみやりしいふつるき や
後拾遺
雲うれて乃こゝ梅の咲ふくりまこと乃あそんとはを や
同花
関こゆる人のとゝやみちのくに乃あそのまあとりみちしふき や
新拾遺
ゆゝとも乃こゝまこゝん山のこゝ月乃そのちゝおゝいつや と

[illegible]

秋萩を[illegible]

散木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を挙られしうは後拾遺抄に
と[illegible]三かれしもあるは拾遺抄に
の戸ぬかさるなに
歌はまれしうれはある
やはおろく切さるやなり
問かるやうるを緒にみ云
られも歌はんあるこ
神無月名は時雨のうまさりつ
もやとひて
といそうあ
白とうまちんとう
をといとあ
新古今五音番風雅
そもゆえひとをいそれ

そはこれ下よりかるこ
みやとひて切ることも文はあ
後拾遺抄八句きあるこ
みやいはまるやうに
れいかの
ぬ
れ
結
ん」とあ
歌
とかはら
ん
ん
結
ん
ん
ん

今おにあて一格となせる法よく味ひ見ほてこ問く
おこまはあひあうこひのやうう
◎うとかひのやまなほまて切る格
徒古
七月
徒後拾遺
思ひうとあかこ
百代
風の
夫木
おひ
月清
なうまて
仲の歌
後拾遺抄
人
ひおひ
堀川
かろ
の花
徒拾
人
ひおひ
堀川
かろ
の花
春の

やはひの
やはひ
やはひ
やはひ

拾遺
千載
あてはいとしるしるはいてくおもひ
や
かてくまてはある月
や
なかれとあれと集抄本
歌は長方つのよてはたの家集は月
鄭白おもかれとおつこう
あ緒二の書くそくの張とつ中に拾十六
かそうまてとたつ
や
紀伝字ふ字ふ
るきそるれ此ではその写し張り
さそはかきされは留りの
今拾よをやはでやの写張る
やよるれるりでとでと形し仰れは写し張りぬ
新改集
まとふ
や
本かれるし山より
若紫ふまとふ
や
花のあるはえうき
とかはしるえ乃
くこ花をあはむこはうき
とはしてどく三条れは常の格
ちう賀茂保憲女集
書はをむ
や
なく
あさうす
ちゆく宣の花のふうはとやなく
と結ひまれは常
の格よてとるるめ
して此格かまはるは下
部

ふ常て
かたうる
ふうしとて女房はむつまし
ひて
や
ひて
や
そはおもひ
のてはてやと
や
ると上をその結ひまてきとひと
て結ひ問かるこしや月おく
○やを重ねる格を俗ていとう
千
君
や
あ
ぬ
ぬ
や
あ
月
や
あ
ぬ
や
あ
そはは歌のまやむ
下につけてみるに結ひのやをおくはのりはてこれくと
ちはよおくやしはるを俗の格歌のあ
梅花
枝のよ花ふほとの心をは
や
いそんとるとや
いそん

後
ひるがへれ［や］ゝそまくつる月うけとそて［や］いそんきのて［や］いそん
初日のやい歌島のやり
金
ケ月さい立ちたりあらハあり［や］あ［や］ハ［や］ゝ
ついとおやく言ひ［や］ゝもあり
方代
おもそ［や］ゝそ［や］ゝ［や］ゝそとおもそ［や］ゝいさ［や］ゝひ［や］ゝ
たのうちおもそ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝの三のやハ［や］ゝ
いそやとおつ［や］ゝの世［や］ゝとの［や］ゝのやハ歌島のやゝ
おく［や］ゝと二つ言ひ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ万葉の歌二ハ俗あて古今
集ちとるるよハ俗格的［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ
俗格古今集ちとるるよ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ［や］ゝ

土佐日記 貫之のこゝろをそのまゝにおもしろくこゝろおかしくそのたゞしかりけるとをもしるべし 赤染衛門の下ハかりし 仰ていり

ろくるをもてあるべきにそい莫のこゝろおを二つあるべし

ゆきそと一つハ結ひしるべしのやの格子ハ赤

染衛門集 いかそと問ふぞ人ぞこれあるべきのみこの

のかたそまされるこのいかそいかそとそ思ふそれ

をもてハかりに二つこゝろみるべきあるべしあひまつ

○や何とはなく格 まるにやはと言ひて切る格

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万代
あだ人のこひしき　や　あるそ　おそつれなれとそ　ちとせ　ふるとも
接ま
河の井のおきつ　おつこと　や　なのみ　いそてう紀世に　たえなれなん
万代
河せそのたてる　や　いつく　かつらきの　ゆまの　山ふ花さりうも
接貴
ちられなむしら　や　いうふ　きりくひ　はれて　神ぬ　ふ　とのみて
接
ふるあらなるたさ　や　いろこ　あつそれを　たよるかるもちぬるるを
かれてるかれ
ことたゆるうつ　や　なるそ　ゆくに　ふるかひちあるといふものを
釣子
ふ藤うるかと　や　いつくそ　あ　あつあさ　ふ浦の春　ふ　ふ乃
陣文集
都　いてくる　や　いくくそ　おそつれとも　ふ　ふ　おくくん
ふ三その格なるとふ備ふ　おふ　ふ　ふ　

万代
はるみるひとはなを[illegible]や[illegible]とおもふ[illegible]まつあさぬ[illegible]きさらぎのちうれ
ひさしとはなを[illegible]やはるの
○やえの[illegible]やはるはいまを[illegible]
後千
[illegible]せてのつゝを[illegible]せあてなんうゝやいそねいとゝも地や[illegible]おもふぬ
[illegible]
ひるとあふ月にあるゝとゝまゝ[illegible]や[illegible]時つくかゆのおとゝりきは
[illegible]
[illegible]つのゝや
かゝてゝゝゝおもひかゝき[illegible]や[illegible]かゝゝゝ

新後撰
はるもしみえぬ　秋の上風
新勅撰
なとはのうらよりいでくるあんん月をのこやは　まんとなれと
こは月をのみやは　まんとはひとをとそ　をてつけをを
新後撰
おもひやる　心のゆきてあはれとは　花のあるつゆをえやは　をまし
まこと一格　これはと来分をみてく
やはりて　ひせり
かくのこりてせをやは　つてぬ　花をとそをありとをるく
風
ろいてまもなくとのもて　花をきるこのれをえやは　とをあぬ
新後撰
いそてかくみるこころをとをきんよりをきをやは　せをぬ
作の歌をはちてをとをやはつてをつてをようし
えやはとをあぬとをあようきをせやはをぬきをせよう
といつをのをるのを備をそくいそれるをめをて
上の峯たるやはのをやは　をのやは中まを代格ありてそをて

新後撰集
のかをは年の
うをちをのやは
中ちをきを
をのををるし

山家
咲そむる
のをはあ
やは　春よ
ア外の花
ゆをるをて
ををの格
ををは結句
をるきをと
あるて
てくをては
をのをん

なされをる　を備乃引歌の後撰かみちをををきかへをん人
ををり　やとをあぬの一ををやをて代格ありりりをよりをて
後撰集新抄　まをてをくいるをめ　牧かををををるい
中務集　日をる　をををまつある　萩のはををれをるをあをを
おをろき　やせぬ　風雅　をあやる　秋の山風をあはかを
をを月を吹　やかへをぬ　おをろきやをぬおをろけよう
吹やかをぬ吹かををよう　のををり
○やは　をを乃ををやは　を備代歌
山家　をを
うちををてをををまをて　やは　うをを夜よるをかををひをあををき
後撰
ををををを　やは　いをの涙ををき風をを　やは　ををををををとて
こは切ををやはをて上の切ををやをおをり　をはかをくをを
○でや　を備代歌
を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉葉
世中は水ゐ
やとる月
なる月紀二すま
まつくもお
もかへあら
あ

月
はるをしらせる花ぞ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

久房
久房うなりぬるこちんや
これを切て辞を文の多あるやの下もまた切るべし
ぬる筆する切るやにかそへやうあまたかれもそうひて
問かるることこれも多く歌息の言葉みし
拾
忘れこそやあんこるやまひもれあつひなるもやひ苦
も備にこれをとてもを片不調哥の中に入られるとやい
よに通る歌息まことの格とは時もとのそのぬまあら
ざるを集抄に此やと助字しとうなおつるは格ふ
かるべるやや
拾
あつまやの乃かやうなるもいまやの乃のしるれい
これも備中にてこの歌乃中なるといまやのまいざと
ぬるやなるてとそれ
なるはるこるとこの格ふてよに通るやとは時いこも

等なるて又拾に此歌ハかるべきかそへまく
そをこそる只の白なれハやハ整ひのやまそれ有のの
うんとのしるれたるいつもとは語にあるみてもと
こるまそあるんう上のてもとの語ひとあるみてこ
辞の轉する格そこそ
◎よに通るやや
はそこそ文にいと多記辞し切て語と言てやそ切るやし
雅言集覧に多記なれハ
若宗
こちやとの上つの多記
いとやはるるはるまひるやや
はそこそ
若宗
耳ちのれはるまやと
若宗
いとやのもるやや
はそこそ
はるんこてるつ
はそこそ
おるるるやるそちまや
耳とあてそはるやや

ゆえひとあめつちのあり

○一つの格

信長公記に、まつ江に浦さこ有之、其内に、

信古

一、同月十九日、みよしの山の内、それかしの屋敷、

玉

谷の水をねの茅に引かけて、いそのの中へ入る水せ

月

ゆりけまの山あり、まつ原、気こころとく所なる世

月

大井川をこゆる、岩間より、あしかこ世

月

をとり、にてをかれぬものうとおもひのやたれる世

月

るそもかくこそれあそひとらなるかまの帯のうあ世

源氏

かくそうんの心とくこれんむくいおもうあ世

月

情

取のうち浪のうちに老まるあまの一ときまいこまる世

壬二

こひとのこを国乃江にてもあらたる世

拾遺

ちのうの河のあの下紅葉ちりぬせあ世あらきるる世

月

うこれにてよりむをふこをも野そるるのまの葉ぬまこ世

拾遺

ものあをこうこうにれをひの夕嵐やこわ国のうあ世

山家

みこ一のなれそいつもかこ一ぬと寄子なれいあこま世

月

こ一ものかこ一ろこをふ世こ一ものかりこ世

月

をまれあ寄こをる世ふあるものこあるこのやみの元のこ世

月

世ふあ人あ世こ世あるこ国ふこ世祖のこ世きや

いれこ世ゆりこるるやこ世歌見のこ国世一あふと

いひこ世るいあこふ市こ世ゆるしあこのこ世一のこ世く

かこ世りたこ国ふれこ世やこ国ふかこ国ふのハ一つるこ世と□の世こ世一と

ここ世こ世強勢世味ひこ世こ世

○こ世

式のやうとも術ここれ□の世せこれあるこまたこ世ここ

○十四

玉備よ二ゝて　接医君子ハ富貴門ニ入ルカ如シ　そや　出されなるうち二ゝる
番乃殿昭の歌乃方あるそや　ハよみ侍ゝるゝ素分接
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　序ニ云氏殿昭の歌乃三の句のせとあとと
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　書分接ふせてみ女とゝゝるハいみ　きひゝ
のゝとゝるゝゝゝゝゝゝゝゝ

○雜の部

あづま路や　いせの海や　さみだるや　梅雨や　さくらや

なとを備に尋くしたされるこれらのやにつけておもひ出し
物語をかたりつゝ　しをりとなる　青葉　古今の浦やはなち
いまく新風　いそ山こゆる沖つなみとあり　香川
宗樹評して云やと切れてそなくんす角の浦の桜を思ひ
近く難波江や　京もまひぬき　東海やまのこえつゝ
なと諸ふるこれらこれらは難波江の葦とつき東海の雲を
を調ひ元かゝ古歌のさゝめや　雪ゝ近にのや　後の
山ゝなとの句調ふ似せて　まなをしるものゝ建久乃
ひろゝまわるひゝとゝ心」とゝろ〻桜ゝかゝつる
やゝ源氏物語の歌まる和泉式部のまゝとゝれも

建久ようゝとゝ倒と三四ゝ尋ゝあく　宗樹ハそゝ
おもきもの多くいひて物語となるゝ
後拾遺　梅　紫や　ゆゝてゝ　ゆゝてかゝ　そのみ
ゆゝて　ちんきゝ　あまの　月の　おやろえ　新
金葉　梅　紫や　立ま　袖の　ひ風　なひ　ね
和泉式部　いと　こひ　みる　心　あ　おもえ
夕霧　をも　系や　ものの　ちつ　夢　とけ
後拾遺　石川　そなる　の常　中　あ　ひ
拾遺　ほ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
拾遺　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
同　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

○ゝ引の系二

○十六

○地二つの間にたちむかひ　玉備まもる
一そむ
一まちにいのるおやひとの長星や　たなばたつめそこたちうらん
ひとりとあるほしつめの間におりり
○よつの通てつやと字なる格
赤松ら
ちよやうやとよろんなちなるて　夕陽花や　蝶や　どかんそこて
あるめ　仲秋　ちりつや　かをるや　かや
りんの辞　ちりけ　蕭や　琵琶や　さきのふえひちりきをふきあそ
枕冊子　ちるの花や　蝶や　といそくはもるところを見そて　泥ぬる
○ぞや
ちるあるまりしく　辞
金　あつまりけおひもよひるの　ひとりのとていつのときう　さや
日　うやまりをけかそて　立かんりふそひのりるとさう　さや

三金
千　むそたまのよるの夢にまさりて　ちりおつこをとんせ　さや
あるそ家の簾ようちをまかそ　そあそれてこそ人とそひ　さや
日　人しれぬ恋の紫ずりあるうやれ水おもとやをとかきるそ　さや
徒古　ぬるうちにおひの外のるもろ夢よいるものとさう　さや
物語　人をひおひのそけさそあにちるふのこの袖をろせ　さや
日　つとよいひて心やあそ山と高のそそそそ人ぬそひ　さや
徒拾　さ月雪にちりみそ山ぬをそ　さや
物千　うまそる杜乃柏木この面にそれわるみのまぬ　さや
百代　ちりとそのかひなそれとそひとあそれとうそ　さや
月清　あそれてふあそかそてちる柏木涙をよおものとあそ　さや
月清　ちりけ　ちりけ　ちりけ　ちりけ　ちりけ　ちりけ　ちりけ　さや
日　夢あまつ川せの涙のいそそそて　せにあ袖のそて体　さや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物古
見せ　そや　ぬ　春がのかすみたなびくるとよ山乃まさかきを
見せ　そや　ぬ　てらておもふ源氏は乃めのとと
日
とは　そや　ぬ　うゝみられる里のあま衣ゆくへまはなきあやひと
拾遺
とは　そや　ぬ　花ちる里にまむかへる玄賓僧正や拾遺
拾遺
見せ　そや　ぬ　秋庭にてする産をのみあるまゝとに拾遺
花山
いそかのつゝたわらほさ　そや　とおもふ　みてなこそも
和泉式部日記
ものいまいつこ　そや　とあつ　源氏の中なるとあつ行　いつちゝ
ひとうゝ
いきう世ふ　そや　とおもふ　引うつのそかを　そや　とうたをする
おもひそるれ　そや　とうたおもふのまそん　やみる　そや　と
まて　おもひみそれぬ
たゝも備まる雅言集覽をみさをれる俗筆ゝ

加

○やの結ひかゝ　格ゝるか
万葉
秋の田のかりそかりあそそも　ゝ　人ぬ　ぬ　ぬ　とあそん
波の上にうきねせ　ゝ　ひあとよへ　ゝ　ゝろかなゝくいあ
日
ゝきゝふゝいゝふ　ゝ　ぬそもの　ゝ　ひとよおらんいあ
拾遺
まて　ゝ　ひ　ゝ　秋をなけぬるとゝのめ　ゝ　おきて　ゝ　雲ハゝ
こい　ゝ　と結ひるゝ　ゝ　て　ゝ　ゝ　ゝ

拾遺
出つるかの
[illegible]
[illegible]
白たまのこと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こハなるそ結ひそやそかれいひ山ふつけるし上の一と結てひち
数を結ひとたりに結ふたと思ひ結ふそれるいとそてとうし

○ゆるかの　思結ふいとをし

古やりせ一人のかゝみ□をみ引されかるそ紅をひて
地てなるるある□いつくしと思ふとあぬゆしそれうれ
拾遺
[illegible]
[illegible]
[illegible]

下若菜
ふゝくゝみ
しゝあるゝ
いとゝ
たたつくゝて
しゝどと間ふ
ふゝこゝゝ

信明
ゝゝゝゝ
てゝゝくゝゝ
やとゝゝさゝく
きゝゝゝゝ
てゝゝゝゝ

つれなくのみもてなしてはらんせられまうねあう

ものふ梯子は仕ゝとあれるもいつよく考へられ
ようしのあるて

○かと言ふる格

も備いと考えて人は筆にもの

教改集
わくるつまもらるとものやひはのうねなるもきら

◎一つのか

仕格もてみのをあるて歌はたはかのくらの
三の男にもふ梯の説を知てくく海ひおなは
と教れるまれてくられに知つ

春日記
ひとをとるる祖の浜門きそのみそぬれまをられるん
あるかくいつのうつくれいはやあるんいておをたるし

かくうゝ日記
仕門のまゝりしもわるゝ
日
これせをもゝくとをるゝ
大院
きのゝこと知ゝうゝわゝくゝどゝ
日
はもをひきあけをせあひて
さゝをゝをかはゝ
日
けてゝう六ゝをゝうゝせをひゝ
水院
うせをひゝきゝとゝをゝをひゝき

ふゝれハゝれまもあゝひ
ゝとゝゝをゝをゝ
ゝをゝをゝ
ゝをゝをゝ

うハの さとそふく人ととあつる辞り上乃ものゝと
ひとつふやひまつ人へうゝ

○かつの さとけかて

後撰集 たゝ寿 たゝ名あつ 文 水とみの 村 るそつまとも ゆ

○かつるの さとけかつ

万七 久方のあまハきねとあやゝくもろこゝろてゝひゝとゝ記なきさ う

拾古 ゆつるさひやをゝけ第の ゝ 日くゝゝの あ う

○かや

拾 ゝ ゝ おゝきりつゝゝひゝくいそうひとりぬるとゝ や きみ

ゝ ゝとゝや ゝ ゝてあて乃新ゝれるゝけゝそうき

拾 ゝと ゝや ゝ ゝ ゝてあゝゝ花の名ゝゝすれ

皇太后宮 ゝとゝや かゝゝ行ゝるゝの名ゝれゝたゝふハ系方ゝゝ

舞火 ゝまゝと ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

枕冊子 ゝ名とい ゝ話題 ゝゝと ゝ ゝ ゝ ゝ

幼 ゝゝと ゝや ゝ名ゝゝゝれゝゝれゝゝのゝまゝの

ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

何

なそ　なれ　ゐる　いふ　いく
ゐるゑ　ひとつ　ゐる

○何の下におくもの

はかのこの近世語てやとおくうひらことゆるよ一ハ事
備にそこくいそれ事愛海ふ嘉まつそこ古あされこふ成
人類ひて事愛海ふ雅しる俗高義の辭ふつそこ
ふこ紀まへこる代さこの詩しにてくいこ学ひるこ人
よく宮てさきくおやまつこもゆくそこ詩歌詩文
そいこくおりこてさこ学へ紀ふもあれと和学のなあ
ふ物いさこ学一つも備ふハ代詩歌こそこ学へこそこおさ
きこて仏されこいかこそこ学ハ皆こ紀のこ
ふこそこきこいこて学ハ皆こ紀のこ
こもゆ学の使いるれおこつる一みふ
あゆへられいくハ一そつまくあこそ

古
よひにまここ所さめんかよなこ一いふ祈一よう学ひんえこん
日
ちこのみふるこふあこと所ここれいふふちれどう風のくこん
日
こぬくとまつゆこれの世風そいふふこうこひこうん
仮
のこふ紀こ紀こふ所あこそこいふふせどうくハつれなき
指
いこそこるれあこるのひこてこそこ日れこと学ねと
指
の紀こそ代本塚ふ乃こなたのこいふ和こう冬の歌あこん
古
いこうこと物ふものこういまこふ和こう冬の歌あこん
日
さみれのこそこと学こ所こうこ日れハたのまん
仮
あふこと学どうよこそあこう
仮
第代一かこん愛こと学こ紀こ
新乃指
こ一人こそ物ひあここるやふ所こ
古
あこう春どこう花ふ所ここん
花ふこりふ人ここれあこ代第ふこ
仮
ま柳の系こりここへこ物ふこ
仮
いこれの山乃ここ所こう学こ

古 いつくよりの世とはいとそんこそろこそ聖こそもゆまもまもこそなれ

同 あうとそとゆよれをそて うそとそきこあくこはゆるこうゆ

後 いつまてのそろ秋きくのそてのそ うの心の拙乃風をまつ八らん

同 いくよへて及うこそれんこそろぬきぬ人の拙そ紀みこそ月よとと

古 おもつこうり いうゆせとと うの拙風ゆゆひくをそ的のそきこにるる

後 あはさろ一時 いうるしゆ るしのとて うこあくのまゆんゆいこひき

後 詞書 とこは いこうこ そうこ一 うこ ありこ

同 なゆ ゆて作りこるゆれて うこ ありこ

相同 いつれのおろん時ゆ うこ あうこん

宗法拙 いうこ なることゆ うこ こそうこえん

これこのかゆ一いゆこそ宗まうこる格こて一 歌と言く

筆こるも及こゆやうこなれとこもれこ詠こ人こ今て

校十 狩ゆこ角天 るこいうこゆ よゆ人のゆ人こ きこあるゆ やゆ春曙ゆ の宮張こる 一 古言の 倒さること あるこゆ

義門法師ゆ山口梨中の実 四十のひこ 細注 に何こよれるゆ書いこあれ

こうゆ一とゆこうゆ法師ゆ此乃ゆはまこゆいこそこそ一き

人こ書けこ宗一法ゆこ一ゆこ正一こ書ゆこれゆかく

ゆこひここのあるいこゆ人ゆこの世にうまれゆこうこ

ここの誤ゆこうゆ初学の人ゆこ心こ用こて 香川宗樹ゆ 近義考補ゆ 演武集

自詠歌合の判こゆ何こ一 何ことあゆこゆ きことゆこうゆ 同人演武集

歌合の判何こゆ一 いこゆ宮 きことゆこうゆ とかこうゆ人のよゆ歌まこゆ 詠

格こゆまこゆの誤こて変こゆ

乃こゆこうこうこ一ゆこうこ

夕乳 いうこゆ こうゆひこゆきこと こうゆ 人こまゆひゆこうん

此いこゆの結ひこそいひゆこん まこにかれゆゆこにこの下に

ゆこ一ゆこゆこ上こゆ宮こゆ歌の中にこ此格ゆこ一こ

こうこ一こゆこゆこゆこゆこ乃ここ乃附張ゆ

ここここいここ一こゆこゆこ乃ゆこゆこゆこゆこ

万代
とこのやまれ系いそれらい[いう]そうりし世をやしてまてしてふる
拾遺
とはるとと[れ]そうとやるしん重ねあ多のいそけかんろ
壬二
かみあ月[れ]よる向の山風やかみちのまたそしてあるよ
これらのやいかの写侘るて一拾遺ろるてかるしられ
そうとうとある〈きし数るかまやとあるい
こ向いあるをいつのるとやひろ月とそをうきとある
やいうなくかの写侘るて一拾遺ろるて拾遺ろ
○何と重ねる格　を備後歌ま
後法
[なる]るけ[いつ]あるて一とはひてうかほうれよるれなるる
山家
やるしるの月の光乃あるさは[いる][いつ]ともひろをそ乃池
新後拾
拾遺て[く]和乃子まと信ひて[いつ]ぷ乃て一あ坂の世き
けてものぷいまあの言ふれるて一さてるて言をわひ

万代
うれとは人のとろいる[る][れ]とかろて一おつる源そ
今えてけあれとこれ[る]いてろれひひめしま備の御
歌ふまてこれよくとこのひるまて一な御例とへて一個記
て岸てるろ月とのそれる歌ま乃ひもいてるれとは
言ふしそれにるまるまき歌ふまてるれい序にこれ記う
○をみるもと文る格　を備後歌ひと文
後法
[いく]かうるまてかるる一萩原やまこれ風の秋のゆるれ
万代
るれられ[いく]世をるもかるそうきてなれぬるあ月夜
○をと文るこてそ一をよりは格
後法
あるんうるる度のあるようるて一よりやいつ[ま]てあらとおるる
和歌式部日記
そるのやそるて山とるんきいるれと[る]のかひる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後撰
たのしべき　あづま　むつきたちかへるなり
こゝろもつきとかけて　むつこんとふる歌の詞をとりて
躰語ふいひかけしるし　あ歌とかる方代格なり
○いづく
新後撰
かつらこしかたとちきれとも　いづくかつきの
子
おもかげ　川みをさかのぼる　物のひ　毎月ごとの世も　いづくかつきの
新後撰
おもひやれ　ぬしのこゝろ　ふれをまつ　まとて　いづくかつきの
月清
ゆくすゑ　みやをかなしの　ふるとしの　あとゝ　いづくかつきの
是ハ　ゐ　一き　一ゑ　の三轉證歌の　何　のわたしへき歌
なる　ゆゑ　にこゝ　ものつ　も備　にかつ　こゝ　あて　てゝ
されなり　代格　時ひ　あて
○いつこに

也備に　三てゝ　ゆ　てゝ　れと　こゝ　れ　四の　自に　あて　切　こゝる　こて
結自　なる　ゆゑ　一て　ゆゑ
新勅撰
とゝ　て　山こゝ　ゆひ　ゆ　こゝ　ゆ　こゝ　ゆ　こゝ

ふ代なるこのみいひていくよ代そとよ代の数と問ふてと
なるいくよ代そといはゞまことにいくよ代なるへ菊の花とひてよ代の辞かるそしいく
よ世ゝまてといてそよろしきしてよ代ならめとよく
ゝ花まてはなるへき辞し」けるも嘉よ今按ふ此説
まことにはなることなり
ひありなれてへさこにあそこそよ一とをきまて
をそちかへりぬるとさきなる付時名人くらかえ五月雨乃そら
歌をいくとのみひてなくの日数のつもるいくよやや
ゆすゝ」とあるいはやこいそいるとの日かけなる
といふことなるいよくとのる歌しけるなゝ
かその条に挙られ

毛九 俗上乃

挙られる玉葉和泉式部の引歌のいろ〻こゝにかゝるゝ」いくゝ駄語
ゝこゝの引られ引てひゝこゝはあれん駄語の詞を駄語ゝいひ
用後と駄後ゝいひ格ゝ例あるゝし用雅なるゝ駄後
のやうなるゝいひゝ引てゝ
ゝあれまゝ引ゝ
ゝあそれいそ
ゝあれまゝ
ゝあれまゝ花のいろ〻れ
歌ゝ古今ゝ
ゝあるれゝあれいよゝ駄後ゝ
ゝあるゝ
ゝあるゝ
ゝある

新撰
海山の浜のいくへとかすみたち
かすそ
拾遺
あまの子山里のしるのいくとせ
とかすみてみるめかりそ
これら駅語のやうにいひなれ和泉式部の
ものとそ
なくやうにいとをかしくそ
月
拾遺
松のうへにすみそめにけるものといひ
なしこれまさしく駅語にいひなれたる
いとをかしくそ男してとゝ
てそ前の三そくはかりにいとをかしく
ひさしうなりて

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan